**豊田　昌聰(とよた　まさとし)**　1934年(昭和9年)　２月生　間もなく傘寿80歳

3歳… 日中戦争始まる

7歳… 太平洋戦争始まる

12歳…敗戦、そして戦後の混乱

中学、高校、大学と人生観・世界観の形成される時期は衣食住の事情が極端に厳しく、

また価値観の大転換の時期でありました。軍国主義少年から民主主義青年へと戸惑いの中で子供から大人へと育っていったというわけです。

私の中に心身のタフネスさがあるとすれば、この時期に形成されたものかと思っております。

いい加減な妥協性は間違いなくこの時期に形成されたもののようです。

小学校は父親の勤務の都合で転々としました。神戸の街で２か所(長楽、鵯越)、続いて明石の

魚住小学校、徳島の山間部の阿川小学校の４か所でした。

中学校は旧制に入学後、1年後に新制へ移行し、高校の併設中学になり、下級生の居ない３年間を過ごしました。敗戦直後は占領軍から部活動の武道が禁止されたため、運動をやりたいという仲間で集まり、戦中予科練で行われていた闘球(今のラグビー)部を作り、走り回りました。

高校時代(昭和25、26年頃)には、徳島代表で全国大会に参加しましたが何れも１勝も出来ず

敗退しました。

ラグビーには「一人はみんなのために、みんなは一人のために」というスローガンがあります。

また、試合終了は「タイムアップ」ではなく「ノーサイド」と言います。敵味方無しという意味です。

この２つの言葉はラグビー精神の神髄であり、私が今も大好きな言葉のひとつです。

大学は自由と反権威的学風に憧れて京都大学へ、田舎の高校生にとって戦後の復興と言えば土木工事以外は見えなかった所為もあり、工学部土木工学科を選びました。

卒業後は建設会社に就職し、約50年間ただひたすら働きました。家庭も子育ても家内任せに、戦後高度経済成長の第一線で働いたと言えると思います。

最初の20年間は建設業法に基づく主任技術者、現場代理人として、工事事務所で愛知、滋賀、大阪、兵庫それに九州の佐賀、福岡での大型工事に携わることが出来ました。土木の技術者として十分に満足出来る20年でした。

後の30年は受注活動を中心に会社の経営の中核に関わる立場を強いられ、喜びもありましたが、72歳で引退するまでは、相当に苦労もありました。

私が引退した頃と同時期に、読売新聞大阪本社にて「わいず倶楽部」が発足しました。ＹＣ甲南の代表に勧められ、「わいず倶楽部東灘交流会」の10人の世話役の一人として活動を開始、現在に至っております。

わいず倶楽部東灘交流会は読売わいず倶楽部事務局並びにＹＣ甲南の絶大なご支援とご協力のもと、「囲碁の会」「バスツアー」「ウォーキングの会」「料理教室」「紙芝居」等々世話人の発案によるボランティアを中心に活動しております。

オモシロ勉強塾もそのひとつであります。

**凡庸な教師は只上手に喋る。**

**少しましな教師は理解させようと努める。**

**優れた教師は自らやってみせ、子どもの心に火をつける、**と言います。

私は優れた講師でありたいと思っていますが、未だ至りません。それは十分自覚しておりますし、これからも努力を重ねていきたいと思います。

このオモシロ塾が、旺盛な知的好奇心と社会の出来事、世の中の動きに大いに関心を持ち

且つそれに対して働き掛けることの出来る青年が育つきっかけのひとつになることが出来れば、私にとってそれに勝る喜びはありません。気力、体力の続く限りオモシロ塾は続けていきたいと思っております。